

13. EU加盟後の中・東欧諸国への外資の進出状況に関する調査研究

1. 調査の目的

2004年5月にEUに新規加盟した中・東欧諸国は外資の進出をテコに高い経済成長を達成するとともに、経済構造の高度化や輸出構造の高度化を図ってきた。また今後、EU加盟が予定されているブルガリア、ルーマニアなどのEU加盟候補国の場合も、これまでのEU加盟準備プロセスを通じて経済改革を進めており、EU新規加盟国やEU15へのキャッチアップを図りつつある。

近年の中・東欧諸国の高い経済成長や経済改革の進展には、EU企業を中心とする外資が大きな役割を果たしている。今後ともEU15へのキャッチアップを進める中・東欧諸国にとっては、外資は重要な役割を果たすものと考えられる。

日系企業の場合も、拡大EUの誕生後、新規進出企業はもちろんのこと、すでに西欧に進出していた企業も含めて、拡大EU市場での競争力を強化するため、新規加盟国や今後加盟が予定される国を戦略拠点として重視する傾向が強まっている。事実、新規進出件数で見ると、最近は中・東欧への進出が西欧への進出を上回る状況が続いている。

こうした状況をふまえて本調査では、これから中・東欧への投資を検討する日本企業の参考に資するため最新の中・東欧のビジネス環境（投資環境）をとりまとめ、紹介した。具体的には、中・東欧諸国の対内直接投資動向と日本企業の動向、外資の進出が中・東欧諸国の経済に及ぼした影響、EU15主要国の対外直接投資と対中・東欧投資、拡大EU誕生後の中・東欧諸国の経済改革の進展状況とビジネス環境（投資環境）の変化、EU新規加盟国や加盟候補国（主要国）への最近の外資の進出動向とその特徴、などに焦点を当て可能なかぎり最近の状況を取りまとめた。

2. 調査結果の概要

・中・東欧諸国の対内直接投資動向と日本企業の動向

中・東欧のEU新規加盟国への外国直接投資は、2003年には民営化案件が一段落したこともあって急減したものの、2004年には新規投資を中心に回復し、05年も増加傾向が続いている。投資対象は製造業に限らず、優秀でコストの安い労働力を活用した研究開発（R&D）投資やサービス分野にも広がっている。

中・東欧諸国に対して日系企業は90年代後半から進出を本格化してきており、新規進出件数は近年、西欧を上回っている。日本企業の進出が多いのは、輸送機械・部品を中心とするチェコ、電気・電子部品、輸送用機械・部品を中心とするハンガリー、同じく輸送用機械・部品を中心とするポーランドなどである。特に最近はトヨタ自動車チェコでフランスのプジョー・シトロエン・グループ（PSA）との合弁企業（TPCA）で小型車の生産を開始したことから、自動車部品メーカーの進出が活発である。

・外資進出がもたらした中・東欧諸国経済への影響

外資は進出先産業の近代化や生産性の向上などに大きく貢献し、中・東欧諸国の EU15 を上回る速い経済成長を可能にした。外資が中・東欧諸国に進出したことによる影響が最も具体的な形で現れた現象として新しい産業集積の形成が挙げられる。

そのひとつが自動車産業の集積であり、ポーランド南部、チェコ、スロバキア西部、ハンガリー北部に集積がみられる。これらの地域で生産される自動車は、西欧で生産される自動車のまだ 1 割弱にとどまっているが、今後、自動車生産における中・東欧の自動車生産の比重は次第に高まってくるものとみられる。

ポーランドとチェコでは欧米の大手家電メーカーの進出をきっかけとしてエレクトロニクス関連の新たな産業集積が進行中である。ポーランドには欧米の大手家電メーカーの進出のほか韓国企業が多数進出している。またチェコではコンピュータ関連の台湾企業の進出が活発である。

自動車やエレクトロニクスといった特定産業の製造企業の集積にとどまらず、中・東欧諸国では最近、欧州域内に展開する企業の財務・会計業務を集約してシェアドサービスセンター（SSC）を設置する企業も増えている。

・EU15 の対外直接投資動向と対中・東欧投資

EU（25）の経済は、2003 年後半から回復過程にあり、2004 年の実質 GDP は 2.4%と 4 年ぶりに上昇に転じたが、原油価格の高騰、ユーロ高などの影響で 05 年の成長は 1.5%にとどまるなどその回復力は弱い。そうした中で、EU（25）の直接投資は全体として、対内・対外ともに大幅に減少した。しかし、2004 年 5 月の EU 拡大が、加盟国、特に新規加盟国に与えた効果は大きく、中・東欧諸国の対内直接投資は 2003 年を底に回復傾向を示している。EU15 の中・東欧への主な投資国はオランダ、ドイツ、オーストリア、フランスなどである。チェコ、スロバキア、ハンガリー、スロバキアなど中東欧諸国にはドイツ、オーストリアからの投資が多く、バルト三国にはデンマーク、フィンランド、スウェーデンなどの北欧諸国の投資が多いなど、地理的・歴史的な背景を踏まえた投資パターンが見られることも一つの特徴となっている。

・EU 新規加盟国および加盟候補国における経済改革の進展

欧州復興開発銀行（EBRD）が作成した移行指標で、中・東欧諸国の経済改革の進展状況を、EU に新規加盟した CEB（中・東欧とバルト諸国）と SEE（南東欧諸国）別にみると、両グループともに経済改革は全般的に進展しているが、EU 加盟を契機に経済改革を大幅に進展させた CEB 諸国と比べて SEE 諸国の改革には停滞が目立つ。また各国の経済ガバナンス（政府の経済面の統治能力）に対する企業の評価を見ても、中・東欧全域で全般的に企業の評価は高まっているが、CEB の企業の方が SEE の企業よりも高い評価を下している。CEB の企業の経済ガバナンスに対する評価が高まっている中であって、EU 加盟による労働規則の EU への統一によって、CEB の企業にとっては労働規則が EU 加盟前に比べて重荷になってきている点が注目される。

ブルガリア、ルーマニアを例にとって EU 加盟候補国が抱える経済改革上の課題を見

ると、マクロ経済上の課題としては経常収支赤字の拡大、労働市場改革では、特に若年層失業率、長期失業率の解消、ビジネス環境改善ではビジネス関連法の整備、汚職の撲滅、産業部門の構造改革では競争政策の強化、金融部門の改革、年金・健康保険改革、などが挙げられる。これらの改革の進捗状況の如何によっては、2007年1月に予定されている両国のEU加盟のスケジュールに狂いが出てくることも考えられる。

・中・東欧主要国の経済動向と対内直接投資

ポーランド、チェコ、ハンガリーのEU新規加盟主要国と、EU加盟補国ルーマニアについて経済動向と対内直接投資動向を概観すると、いずれの国も堅調な個人消費や好調な輸出に支えられて、2005年から06年にかけて高い経済成長が見込まれている。投資も製造業を中心に拡大基調を維持している。製造業投資以外でも、最近ではEUの「新リスボン戦略」に定められた加盟国のR&D関連投資をGDP比3%にするという目標を達成するために、各国ともR&A投資促進に向けた取り組みを強化している。そのひとつの現われが、ポーランドで2005年10月に成立したR&D活動支援法である。同法では、認定R&Dセンターへの優遇措置、R&A活動円滑化のための税制改革、技術開発を目的とした場合の融資優遇措置、などを定めている。こうした取り組みの効果もあって、最近ポーランドではIT関連を中心としたR&A向け外国投資が増えている。チェコでも同様の傾向が見られ、チェコ・インベスト（ビジネス・投資開発庁）によれば、投資の傾向は低賃金に依存した加工組立産業からR&Dや戦略サービス分野などの高付加価値産業に移行しつつあるという。ハンガリーでは地理的位置や人材を活用して欧州地域の広域的な各種ビジネス支援業務を行うサービスセンターの設立が最近顕著である。ルーマニアにおいても、ソフトウェア開発拠点やR&D拠点としての注目が高まってきており、最近では、高い技術力を要する半導体の設計・開発部門で外資の進出が進んでいる。

・日系企業の中・東欧地域進出と今後の課題

中・東欧地域への日系企業の進出は、EU拡大による市場の拡大、EU共通関税の導入による原材料、機械設備輸入における関税の軽減、通関手続きの簡素化による流通時間や流通コストの低減といった拡大メリットによって当面は続くものと見られる。

しかし中・東欧諸国経済はEU15へのキャッチアップを続けており、それに伴って労働者や技術者の賃金も上昇を続けている。EU15のほとんどの国がとっている労働移動の制限措置は最長7年間の暫定期限が切れると、中・東欧の労働者が賃金の高い近隣のEU15へ大量に流出する可能性があり、進出企業が労働力の隘路に直面するといった事態が起きることも想定される。

そうした将来的に生じることが予想される事態を想定して、今後新たに中・東欧に進出する企業は、EU25にとどまらず、ブルガリア、ルーマニア、クロアチア、マケドニアといった周辺のEU加盟候補国はもちろんのこと、現在は加盟候補国にもなっていないバルカン諸国やウクライナ辺りまでも視野に入れて、全欧州的な規模で生産拠点

のネットワークづくりを検討する時代に入っているように思われる。

一方、日系企業の中・東欧への進出は製造業が中心で、R&D 投資は極めて少ない。しかし、中・東欧の EU 新規加盟国は、リスボン新戦略の目標達成に向けて、R&D 投資誘致にも力を入れ始めており、ブルガリア、ルーマニアといった加盟候補国への R&D 投資も活発になってきている。R&D 投資の投資先という観点からも中・東欧地域はもっと見直す必要があるものと思われる。